

米軍属女性遺体遺棄事件に抗議し、 米軍基地の全面的撤去と 日米安保条約の廃棄を強く求めます

沖縄県うるま市の女性が、5月19日、恩納村の雑木林で変わり果てた姿で見つかり、元海兵隊で現在米軍嘉手納基地で働いている軍属の男が遺体遺棄容疑で逮捕されました。残虐な蛮行に対し、激しい憤りを表明し、厳しく抗議します。

1995年には米兵3人による少女暴行事件がおこるなど、沖縄県内での米軍人・軍属などによる殺人や女性暴行など凶悪犯罪は、1972年から2015年末までの間に574件発生し、741人が摘発されています。このような事件が起こるたびに日米両政府や米軍は必ず「再発防止」「綱紀粛正」に努めると言いますが、守られたためしがないことは、今回の事件が証明しています。

このような事件・犯罪は、「殺し殺される」戦闘訓練を日夜続ける米軍基地がある故におこっています。米軍基地がある限り、犠牲者が今後も出てしまう恐れがあります。

米軍関係者による犯罪を根絶するためには、もはや、米軍基地の撤去とその存立の源となっている日米安保条約の廃棄しかありません。

わたしたちは、日米両国政府に対して、早急に、日本にあるすべての米軍基地を撤去すること、また、日本国政府に対して、日米安保条約第10条を利用して、日米安保条約を廃棄する行動を直ちに起こすこと、を強く求めます。

2016年5月31日

日本機関紙協会埼玉県本部

理事長 金子 勝